

御絵伝 (その8)

報恩講の時、内陣の余間に飾られる親鸞聖人の御生涯を描いた御絵伝は、御伝抄の内容を描いたものです。縦長の画幅のなかに、下から上へ順番に親鸞聖人のご生涯を見ることが出来ます。

第三軸・第六図 「弁円済度」



板敷山にて、親鸞聖人を殺害しようとした山伏弁円が、稲田の草庵に住んでいる親鸞聖人を襲おうとしましたが、親鸞聖人の温顔に接して弓矢を捨てて帰依する情景が描かれています。

右半分は板敷山の峠で弁円一味が、親鸞聖人を待ち伏せしているところです。
左半分は稲田の草庵での情景です。

第四軸・第一図 「箱根霊告」・第二図 「熊野霊告」



「箱根霊告」(右半分)

親鸞聖人が箱根権現の翁の饗応を受けられるところが描かれています。〈饗応：ごちそうする。酒食を用意して人をもてなすの意〉

「熊野霊告」(左半分)

仁治元年2月、京都五条西洞院の御坊に親鸞聖人が住んでいた頃、大部の平太郎が、熊野権現参詣の途中に立ち寄り、教えをうけているところが描かれています。



消火器④



消火器⑤



消火器③

の事と、割り切らなくては…。消火器の設置場所写真を掲載しました。どここの場所か判りますか？

報恩講にご参拝された時、消火器がどこにあるのか、チェックしておいてください。

点検だけで終われば良かったのですが、この度は、消火器の耐用年数の超過を指摘されました。古い消火器を十本処分して、新しい消火器を七本設置。予想外の出費でしたが、安全対策として当然



消火器①



消火器②

住職レター

年末を迎え、報恩講の時期を迎えました。善教寺では、毎年十二月二日に勤まります。今年もぜひ、ご参拝ください。さて先日、三年に一度の、火災報知機の点検を終えました。毎回、点検に来られた方が言われるのですが、善教寺の本堂と庫裏の火災報知器の数は、他と比べてかなり多いようです。部屋数が多いせいもあると思いますが、安全対策を万全にされた結果なのでしょう。